

# ごあいさつ

長らく皆様にご挨拶が出来ませんでしたことをお詫びいたします。

今年の初頭に、この2年間で5回目の渡航、2回目の世界一周旅行を終えました。

今回は、5大陸、12カ国の訪問でした。その目的は、延期しておりました「第2回国際福祉フォーラム」の開催に向けて海外のスピーカー予定者との面談でした。

とくに、今回は「インクルージョン・インターナショナル」の会長さんと2人だけで1時間30分にわたる会談が、出来ました。お互いに本音で語り合うことが出来ましたことは、大変実り多いものでした。これは、「インクルージョン・インターナショナル」の事務局長さんのご協力によるところが大きいものでした。

また、長年の願いでもありましたアフリカも訪問できました。その他、各国のスピーカー予定者とお会いできたことに感謝申し上げます。

その中でも、フィンランドでは、街に住む障がい者の生活の場と就労の場に直接出向き、本人や支援者などと十分な時間をかけて情報交換できたことは、大変実り多いものでした。

その渡航から帰国後すぐに「全日本手をつなぐ育成会」の理事長さん、副理事長さん、常務理事さん、理事さん、事務局長さんとお会いでき、1時間にわたり情報交換をすることができましたことに感謝申し上げます。

その後、すぐに3月11日の東日本大震災が発生しました。私自身も昭和58年の日本海中部地震以来の大きな地震にあいました。

この場を借りまして、被災されました皆様方に、改めてお見舞い申し上げます。

また、この東日本大震災の後、すぐに人命救助や生活物資、募金活動などの様々な支援をいただきました世界中の方々に、お礼申し上げます。

なお、私事で恐縮ですが、平成9年に左肩の悪性腫瘍を摘出するために8時間半かけて約1,000針を縫合する手術を受けました。その手術のために左肩の僧坊筋を摘出され、その結果、その後の必死のリハビリにもかかわらず左腕の機能の一部は失われ、左肩の稼動範囲も制限される結果となりました。さらに、10年以上経った現在でも、左肩全体をギュッとつかまれるような強い疼痛が残り、左肩から左頭部にかけて少しでも触ると電流が走る体となってしまいました。（写真参照）

これらの疼痛の治療のために、硬膜外ブロック療法、神経節ブロック療法、高周波熱凝固法、モルヒネなどの麻薬療法（経口、パッチ）などなどの療法を組み合わせてまいりました。そのおかげで、ようやく職場へ復帰できましたが、地震の後にどうしても入院による消化器系の手術が必要になり、消化器系に大きな負担がかかるという理由で麻薬療法が使用できず、手術の前後に神経節ブロックに切り替えるために多くの治療期間が必要になりました。

以上の理由により、長らく皆様方にご連絡が遅れてしまいましたことを深くお詫びいたします。

延期しておりました「第2回国際福祉フォーラム」を予定どおり平成23年11月28日・29日・30日に開催いたします。

今回は、自己資金と入場料により開催する予定ですが、もし資金が不足する場合は、私の30年間勤務した「公」の仕事の退職金を担保といたします。

収益金は、被災された岩手県・宮城県・福島県の「全日本手をつなぐ育成会各県支部」に寄付する予定です。震災復興支援の一助になれば幸いです。

また、日本国内に新たに「南日本支部」を設けることとします。

その住所は、「〒907-0243 沖縄県石垣市字宮良1234-3」です。

なお当団体の活動内容が、国際的活動、国内活動、地域活動など広範囲にわたり、活動に参加、協力していただく方々の理解を困難にしていることがありましたので、今後の国際的な活動に向けてNGO”We Are The World”を設立します。

このNGOは、50年後の「世界政府」樹立を目指して設立するものです。「生命を大切にす」自由、平等、博愛、民主的な、ひとつの国、ひとつの領土、ひとつの通貨、ひとつの軍隊、多様な民族、多様な文化、多様な宗教、多様な言語をもつ「世界政府」の樹立を目的とします。

その活動の最初の10年は、市場経済では生活が難しい政府の支援が必要な人びとが、世界のどこの地域に生まれても、安心して地域で生活できるように、障がい者福祉の世界標準をつくります。

このNGO設立により国際活動はNGO”We Are The World”が担い、国内活動はNPO法人「ノーマリゼーション奉仕団」、地域活動は秋田県能代市障がい者団体「すぎなの会」がそれぞれ担います。

どうぞ、皆様のご協力をお願い申し上げます。

あいさつの最後に、最愛の方へ ”これからも待ちます”

平成23年7月吉日

NPO 法人 ノーマリゼーション奉仕団  
代表理事 石川 清一